

胡雪岩を知っていますか？

後藤 芳昭

中国の歴史上、商業界においては二人の聖人がおり、一人は「陶朱公」、もう一人は「胡雪岩」と言われています。「陶朱公」とは越王勾踐こうせんを補佐し呉王夫差ふさを打ち負かした「范蠡」はんらい（注①）のことで、その後ただちに官界から商業界に転身をはかり巨万の富を築き上げました。彼は自ら「陶朱公」と名乗り、当地の人々は彼を「財神」と尊びました。なぜ陶という姓を名乗ったかについては定かではありませんが、山東省の定陶の地で商売をはじめ富を築いたからかもしれません。

一方の「胡雪岩」こせつがん（雪巖とも）ですが、彼は清朝末期の非常に優れた商人で、人々から「商聖」と尊称されていました。ところが「范蠡」とは逆に商業界から政界に転身をはかりましたが、最終的には一敗地にまみれ悲惨な最期を迎えます。

なぜそのような結末を迎えたのか、その過程を追いかけてながら彼を紹介していこうと思います。内容は曾仕強・台湾師範大学教授のテキスト「胡雪岩的啓示」（陝西師範大学出版社）を使っただけの要約ですが、まずはこのテキストとの出会いを紹介します。

私は2009年の定年退職後、厦門アモイ大学へ半年間留学に行きました。その際、CCTV（中国のNHKに相当するテレビ局）のいろいろなジャンルの専門

家による講義番組である「百家講壇」で、「易経的奥秘」のテーマを曾仕強教授が講義されていました。もちろん字幕付きです。それが面白くてテキストを買いに書店に行ったところ、同教授著の前述の本が目につきました。早速購入し厦門滞在中に周囲の中国人にも助けてもらいながら読了しま

した。私はこの時初めて胡雪岩という人物を知りましたが中国と中国人を理解し、学ぶ良い材料だと思いました。

胡雪岩は、1823年に生まれ1885年に62歳で亡くなっています。安徽省南部の績溪故里村（宣城市）の貧困家庭に生まれました。父母の家訓に恵まれ、一生に及ぶ基本的な修養を身に付けます。以下箇条書きにテキストに沿って要約したものを書いていきます。彼が13歳になったところからです。彼の飛躍へのス



胡雪岩肖像（香港版ウィキペディアから）

タートです。

◁・▷◁・▷◁・▷◁・▷◁・▷◁・▷

- ▲家計の助けになるよう、放牛の仕事をしていてた時のこと、疲れて道端の亭で休もうとした。その時忘れ物の風呂敷包みを発見した。
- ▲その取扱い方は、まず近くの草むらにその風呂敷包みを埋めた。
- ▲そしてひたすら持ち主が現場に戻るのを待つ。
- ▲落とし主が現れたが慎重に本人確認をする。
- ▲一切の謝礼を拒否。その対応を見て、落とし

主は放牛の仕事よりも家の雑穀商で働くよう勧める。

▲しかしその場で即答を避け、家に帰って母と相談すると母は了承する。そしてその雑穀商で働くようになる。

▲その後は、そこでの勤勉さを買われ、次は、町の大雑穀商に転職する。

▲そこでも本領を發揮し、店主からは是非いて欲しい人物に成長する。

▲そしてその店主から、杭州の為替商を勧められる。

▲為替商をまじめに勤め上げ、資金を蓄え着実にレベルアップする。

◁・▷◁・▷◁・▷◁・▷◁・▷

次は25歳の時からの話です。

▲人生の転換点となる同世代の「王有齡」^(注②)と友達になり、当時苦境にあった「王有齡」に資金援助していく。

▲その結果、王は読書人^(注③)としての官吏の道を取得し、海運を担当し後に湖州(浙江省・太湖の南岸に位置する地級市)の知府^(注④)、さらに浙江巡撫となる。

▲一方、胡雪岩も為替商の大店主となり、湖州に分店を開いた。

▲位の上がっていった王は、税金を徴収し始めるが役所に置いておけないので、為替商の胡に預けることになった。

▲湖州は、浙江省の蚕糸の産地であり輸送で莫大な利益を上げ、官民ともに利相通じることになった。

▲その後、胡は当時新疆^{しんきょう}を取り戻す任に当たっていた、清朝政府の「左宗棠」^(注⑤)を財政面で援助し、清朝政府のために外国の銀行に貸し出しを行った。



『胡雪岩の啓示』陝西師範大学出版社(2008年)

筆者所蔵



著者の曾仕強教授(1935-2018年)

(香港版ウィキペディアから)

▲西太后から「黄袍馬褂」^{おうほう}^(注⑥)を下賜され、商人でありながら最高の官位を与えられ、人々から「今を羽ばたく最高の商人」と称賛された。

▲胡は、母の命で杭州郊外に「胡慶余堂」^{こけいよどう}^(注⑦)を建て、「真不二价」(当店で扱う薬に嘘偽りはない)と記した扁額を掲げ、疫病の流行時には人々に薬や粥を振る舞い「胡大善人」とも称された。

▲しかるにたった3年という短い間に、「李鴻章」^(注⑧)は最大の政敵である左宗棠を追い詰めるため、先ず資金源である胡を倒すことにした。そして執拗にあらゆる手を使い左の政治資金の出所を追求し胡が外国銀行への違法な貸し

出しによる金利を得たことを突き止め西太后に注進した。今度は胡は西太后の怒りに触れ破産に追い込まれ、わずか 62 歳で悶々として亡くなった。

◁・▷◁・▷◁・▷◁・▷◁・▷◁・▷

以上、彼の生い立ち、成功に至る過程、そして没落に至るまでを簡記しましたが彼がどのような家庭環境で育ったか、どんなきっかけで人を助け成功していったのか、どのような働き方をして抜擢されたか、どのように一生の友達を持ったか、そしてどのようにして一敗地にまみれたか、など曾教授のパラグラフごとの「啓示」を読みながら納得したり、疑問を抱いたりして、清末の世情や中国人の処世術を学びました。厦門での留学の心に残る「胡雪岩」との出会いでした。

(続く)

■注釈

- ①**范蠡**：生没年、出身地とも不詳。越王勾踐に仕え、勾踐を春秋五覇に数えられるまでにした最大の功労者。呉王夫差を打ち負かし有頂天になっている勾踐を見て友人へ手紙で「狡兔死して走狗烹られ、高鳥尽きて良弓蔵る」と書いて越を去ったと言われる。
- ②**王有齡**：(1810～1861年)福建省出身。挙人となったが進士となることができず、胡雪岩の出資の下浙江塩大使の官職を金で買う。
- ③**読書人**：士大夫(科挙官僚)をいう。
- ④**知府**：地方行政区画である「府」の長官をいう。
- ⑤**左宗棠**：(1812年～1885年)湖南省出身。清朝末期の著名な大臣。太平天国の乱の鎮圧に活躍し、洋務派官僚としても有名。
- ⑥**黄袍馬褂**：高貴の人が着る黄色地の長い服
- ⑦**胡慶余堂**：中国の老舗の薬局、製薬会社・問診所。1874年に創業。
- ⑧**李鴻章**：(1823～1901年)安徽省出身。清代の政治家。洋務派運動を推進し、清朝後期の外交を担い清朝の立て直しに尽力。日清戦争時、下関条約で清側の全権大使となり、調印したことでも知られる。

*各注釈はネット他から引用。なお本文中の曾仕強台湾師範大学教授は、2018年逝去された。

央视网视频 > 百家讲坛《胡雪岩的启示》> 《胡雪岩的启示》第1集 德行定终生



曾仕強教授講演、「易經的奧秘『胡雪岩的啓示』」は CCTV のホームページから閲覧できます
<http://tv.cntv.cn/video/C37788/63e3e77d65de4e7bb83333905ca2e0dc>